

## 補遺3 分類別自由回答代表例

### 1 外来

1-1-2	外来治療	<ul style="list-style-type: none"> <li>受付から診察まで3時間待つので肉体的にも精神的にも疲れる。</li> <li>体に負担がかかるのに、毎週、抗がん剤治療が外来で行われる。</li> </ul>
1-2-1	病院の選択	<ul style="list-style-type: none"> <li>がんと手術ともなれば、どこの病院へ行ったらいいのか。(病院によって治療方法や患者への対応の仕方が違うので迷った)</li> <li>子どもが小さいので、どの病院で治療を受けるのが自分および家族にとってベストか。</li> </ul>
1-2-2	医師の選択	<ul style="list-style-type: none"> <li>小さい子どもがいたので、安心して命を預けることのできる医師に出会えるか不安だった。</li> </ul>

### 2 入院・退院・転院

2-1-2	入院するまでの時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>告知から入院を待つ間、日ごとに不安が増し、生き地獄だった。ありとあらゆる不安を相談する相手もなく、一生忘れられない時間となった。</li> <li>がんと診断されたが、病室の空きがなくて、2週間程待ったが、その間に進行しないか転移しないかと不安でたまらなかった。</li> </ul>
2-1-3	入院に関する思い	<ul style="list-style-type: none"> <li>入院中、他の患者たちの話があまりにも生々しく、耳を覆いたくなるが多々あった。そういう時に医療者からちゃんとした説明を受けることができればどれだけ安心するか。</li> <li>C型肝炎からの肝臓がんで3回も入退院を繰り返しているのに、これから入退院の繰り返しになるのかととても不安で、毎日が憂鬱である。</li> </ul>
2-2-2	退院の時期	<ul style="list-style-type: none"> <li>入院中に病棟を移ったので、知り合いの同病者もなく、いつ退院できるのだろうか不安の毎日だった。</li> <li>体力も気力もまだ自信がないのに退院をするようにと言われ、家に戻るのがこころもとなかった。医師に相談して別の病院を紹介してもらい転院、4週間を経て退院した。</li> </ul>
2-3-1	転院に関する思い	<ul style="list-style-type: none"> <li>今の病院では、再発した場合、治療とペインコントロールを上手に行ってもらえるかどうか、不信感がいっぱいである。転院しようかとも考えている。</li> <li>転院したいが主治医の機嫌を損ねそうで言い出せない。</li> <li>あと一年で定年のため、ふるさとの地方に戻る予定である。東京でこのまま治療を続けたいが、戻った後、これまでの高度な治療が受けられるか心配になる。</li> </ul>
2-3-2	転院による影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>治療を続けるのに転院しなければいけない状況になり、夫の転勤、子どもの転校など生活ががらりと変わる事への不安などに悩んだ。</li> </ul>

### 3 治療

3-1-1	治療法の選択	<ul style="list-style-type: none"> <li>がんというだけでもショックなのに、それを乗り越えているいろいろなことを短期間に判断しなければならない残酷さ。相談はしても結局は自己決定しなければならない難しさ。</li> <li>数種類の抗がん剤を説明され、その中から自分で選べと言われたが選べなかった。こういう場合、誰に相談すればいいのだろうか。</li> <li>手術の日程が告知の10日後と決まってしまうと、病気の基本的な知識を得る時間もなく、切除範囲までを自分で選択することは難しかった。</li> </ul>
-------	--------	---

3-1-2	治療に関する思い	<ul style="list-style-type: none"> <li>ある抗がん剤の使用で頻尿と痛みとの闘いの日々となり地獄の苦しみだった。人間にする治療法ではなかったように思う。</li> <li>手術を受け、その後の抗がん剤治療を受けることになった時、どういう症状が出るのか、それに耐えられるのか等、非常に心配だった。</li> <li>抗がん剤の副作用で、いつも気分が悪く全身倦怠感で疲れやすくとても辛い。2年半以上になるので、かなり嫌になってきている。</li> <li>診断されてからインターネットの情報や友人・知人からの助言もあり、具体的に医療機関と検討したが、結局、治療法が確定するまで約2ヶ月間精神的に不安定な状況に置かれた。</li> </ul>
3-1-3	前体験による治療への思い	<ul style="list-style-type: none"> <li>また再発し一から検査、治療があるかと思うと辛い。一度経験したことは体がわかっている。</li> <li>抗がん剤による副作用のうち、夜の吐き気が精神的にも肉体的にも一番辛い。もう二度としたくない。</li> </ul>
3-1-4	手術に関する思い	<ul style="list-style-type: none"> <li>手術はうまくいくのか。術後の状態はどうなっていくのか。</li> <li>診断されてから手術まで3ヶ月かかった。もっと早く手術して欲しいと何度も話したが、順番だからと言われ待ち続けた。その間が1番苦しかった。</li> <li>リンパ切除による後遺症で悩み、リンパの切除に同意したことを後悔している。</li> </ul>
3-1-5	他の治療法	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の方法（手術以外の方法）はないのか、相談する人（医師を含め）がいつも悩んだ。</li> <li>がんに良いと言われている健康食品の服用の是非を主治医に問うと、見向きもされなくて、抗がん剤も使えない時だったため、見放されたような気持ちになった。</li> </ul>
3-1-6	治療の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>前の病院では乳房温存手術後、放射線を毎日かけると言われたのに、治療中の病院では1週間に3回と決まっているとのこと。その治療方針に問題はないのかという不安。</li> <li>主治医の転任に伴い、意見、治療法が大きく変わった。前任者は抗がん剤投与による化学療法、後任者は退院させて自宅療養。後任の主治医の指示に従えば死を待つしかないのかと思った。</li> </ul>
3-2-1	検査の受診	<ul style="list-style-type: none"> <li>何のための検査なのか事前に教えて欲しいし、結果も知りたい。</li> <li>病巣部の細胞をとった後、結果が出るまでの1週間、胸部の痛みがあり、病巣が広まらないのかと心配した。</li> <li>入院前の検査で病院に行く時いつも1人だったので寂しかった。こんな時誰か付き添ってくれたらいいと思っている。</li> </ul>
3-2-2	検査の結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月の検診で結果がどのように出るか、いつも不安な状態である。</li> </ul>

#### 4 緩和ケア

4-1-1	緩和期への思い	<ul style="list-style-type: none"> <li>末期が訪れた時はどのようなことになるかといった不安がある。また、いつ頃からそのようなことに気を付ければよいか。自暴自棄に陥ることはないだろうか。</li> <li>死を迎えるとき、苦しみがあるのか、それが1番怖い。痛み苦しさがあんなら（金がかかっても）安楽死したい。</li> <li>できれば自分の家で家族に看取られ尊厳死がしたい。延命治療は一切必要としない。</li> </ul>
4-1-2	死に向けての建設的な準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>もしもの時を考え、葬式のこと、財産のこと、周囲への知らせなど、遺書のようなものを書いた。</li> <li>最悪の場合の「死」を思い、家族の生活費等の経済的なこと、持ち家のこと、財産をどうしようか考えた。</li> </ul>

4-2-1	緩和ケア療法	<ul style="list-style-type: none"> <li>まだ苦しみながら生きているが、苦しみを少しでもとる方法はないか。</li> <li>終末期はどのような症状で、どんな治療を受けるのか。</li> </ul>
4-2-2	緩和ケア施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>末期になったときにホスピスに入るかを悩んだ。</li> <li>ホスピス病棟に入院するとどのくらい費用がかかるのか悩んだ。</li> </ul>

## 5 告知、インフォームド・コンセント、セカンド・オピニオン

5-1-1	告知の仕方	<ul style="list-style-type: none"> <li>告知に関する話し方、タイミング等の配慮が全くなく、あまりにも事務的すぎて我が耳を疑った。</li> <li>本人、家族も病名はわからないまま 2 週間後の手術が決まり、検査が始まってから家族に説明があった。不安と不信感で家族に大変な精神的な負担をかけた。</li> </ul>
5-2-1	受診中の病院でのインフォームド・コンセント	<ul style="list-style-type: none"> <li>術後、2年経ってからリンパ浮腫で腕がはれたが、こういうことがあるという説明を事前に聞いたかった。</li> <li>手術についての説明はあったが、専門用語での説明は難しく、家族ともに質問もできなかった。</li> <li>手術、治療に関する説明を受ける際、同席できるのは肉親のみと言われたが、肉親がいないので困った。</li> <li>正確な最新の情報が欲しい。検査データ等、毎回正確に知りたい。</li> </ul>
5-2-2	他院でのインフォームド・コンセント	<ul style="list-style-type: none"> <li>告知の際一度説明を受けたが、その後の治療経過、治療方針についての十分な説明がなかった。</li> <li>聞いていない副作用が出たので大丈夫なのかと不安になった。</li> </ul>
5-3-1	受診中の病院でのセカンド・オピニオン	<ul style="list-style-type: none"> <li>小さな病院だから専門の医師がいないのではと治療に不安を覚えたが、セカンド・オピニオンを探すのにはためらいがあった。</li> <li>セカンド・オピニオンを受けたが、両方の意見をどう処理すればいいのか悩んだ。</li> <li>セカンド・オピニオンを受けるべきか、受けるならどこに（誰に）相談すべきか。</li> <li>担当の医師が急いで切りたがるのでセカンド・オピニオンを受けようとしたが、そのことで医師との関係が気まづくなった。</li> </ul>

## 6 医療連携

6-1-1	主要な治療終了後のフォロー	<ul style="list-style-type: none"> <li>心臓、肺の機能低下による息切れ、疲れの症状があり、やがて通院できなくなるのではと悩んでいる。</li> </ul>
6-2-1	医療連携の連絡・情報交換不足	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数の病院で治療を受けたが、病院や医師間との報告、連絡、相談で嫌な思いをした。</li> </ul>

## 7 在宅療養

7-1-1	通院不能	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢のため、通院不能になった時点で治療をどうするか悩んでいる。</li> <li>心臓に持病があり、体力が低下している。通院できなくなっからの治療が心配。</li> </ul>
7-1-2	在宅療養の希望	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもが幼少だったため、家を留守にすることが不安だった。家で治療ができないか悩んだ。</li> </ul>

## 8 施設設備・病院アクセス

8-1-1	必要だと思う施設・設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>通院するだけでは、病院内に患者同士のコミュニケーションの場もないので1人で悩むことが増える。</li> </ul>
8-1-2	不適切な施設・設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>病院で見るポスターにがん患者の生存率、5年、10年と書いてあることが非常に気になる。あと何年で死ぬかと思うと悲しい。</li> <li>誰かにがんと知られないかどうか心配。入院時ネームプレートを廊下に出さないで欲しい。</li> </ul>
8-2-1	通院の不便	<ul style="list-style-type: none"> <li>がんと診断されるまでの2ヶ月間、片道3時間位かけて病院に行った。そんな繰り返しで心身共に疲れた。</li> <li>外来治療のためバスで通院しているが、朝のラッシュと重なり、座席がなく苦痛である。</li> </ul>

## 9 医療者との関係（自院）

9-1-1	医師・看護師への思い（自院）	<ul style="list-style-type: none"> <li>患者に対して先生や看護師が横柄な態度をとったり嫌な顔をしたりする。服用している薬のことを聞いても何もわからない看護師があまりにも多いことに驚く。</li> <li>病院を変わりたいが、主治医が恐くて、カルテを新しい病院に出してくれるか心配で、お願いしたあとの態度も恐い。今まで感情的になったり、きつい言葉があったりしたので言えない。</li> <li>乳がん診断後、全摘を依頼したが初期だから温存で大丈夫と説得された。その結果、再手術になり、その後、創感染し後悔した。一時、医者不信になった。</li> <li>入院中、先生や看護婦とどう接していいかわからず、自分で全部考え込んで眠れなくなったり、また外に出たくて束縛感を感じたりした。</li> </ul>
9-1-2	医療者とのコミュニケーションが困難な状態	<ul style="list-style-type: none"> <li>後遺症のことを医師に相談しても、日常の仕事が忙しいのか真剣に受けとめてもらえない、聞き流されてしまう。</li> <li>病院に行くたび検査するたび、色々と先生に聞きたいが、聞くのも恐いし、聞かないのも不安で、考えているうちに日々が過ぎていく。</li> <li>だんだん診察日と診察日の間（3ヶ月から半年に1回）が空くようになり、先生と今の状況を話すことが少なくなるため、少し不安を感じている。</li> <li>聴覚障害のため、医師、看護師とのコミュニケーションが困難。</li> </ul>
9-1-3	医療者とのコミュニケーション問題の原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生方（3～4名）や看護師の方々に何度も同じことを話さねばならず、また主治医となかなかゆっくり話せず、いらいらすることがあった。</li> <li>検査と同じように心の治療というか、病院に検査に行っても心も安心できることを希望する。精神的ケア（カウンセリング）も治療のひとつにして欲しいと思う。</li> <li>入院中は先生、看護師の方々に色々相談できたが、退院すると医療知識のある人がそばにいないので精神的に不安定になった時期もあった。</li> </ul>
9-1-4	医療過誤	<ul style="list-style-type: none"> <li>数多く報道されている医療ミスへの不安。</li> </ul>
9-2-1	医療機関に対する思い（自院）	<ul style="list-style-type: none"> <li>転移後、予約をして病院に行ったが先生はもういなくて、看護師からは「先生は忙しいから」と言われた。</li> <li>放射線の医師に、現在は治療方法がいろいろあるのだから、全摘しなくても良かったはずだと言われた。なぜ手術の前に外科と放射線科の医師とで相談して治療方針が決められなかったのか。</li> <li>医療は臓器別に専門分野でわかれているため、トータルにみてもらえず不安である。</li> </ul>

## 10 医療者との関係（他院）

10-1-1	医師・看護師への思い（他院）	<ul style="list-style-type: none"> <li>検査なしに触っただけでがんと診断され、乳房も取り、聞いていないのに生存率まで言われた。検査技師に笑いながら検査され、院内で携帯の着信メロディまで鳴らしていた。医者も技師もナースも最悪だった。</li> <li>3ヶ月に1回、MRI検査を受けていたが、腫瘍マーカーが高い値になった。その時「腹ばかり検査していたから、もしかして肺にも転移したかも」という医師の言動に不安を抱いた。</li> </ul>
10-1-2	医師・看護師以外の医療関係者への思い（他院）	<ul style="list-style-type: none"> <li>院外処方になり薬局で薬をもらう時、「抗がん剤です」とはっきり言われた。それまで元気に明るく生きていたのに、少しうつ気味になった。</li> </ul>
10-2-1	他院での検診・診断・治療	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年前の市の定期検診で要精密と出たので、病院で腸カメラ、バリウムとの2度の検査を受けたが異常はなく、婦人科検診でも同じだった。（原因が）尿の方だと気づかず1年放っておいた。そのため、がんが進んでしまったのではないかと。</li> </ul>
10-2-2	がん以外の治療のための受診	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人病院で他の臓器の検査をしたいが、病歴にがんと書かなくてはいけなくなったことで行くのをためらっている。</li> <li>他の病気で病院へ行かなければという場合、近くや他の病院に行く勇気がなく、つい我慢してしまうこともある。手術あとを見られたくなくさに。</li> </ul>

## 11 症状・副作用・後遺症

11-1-1	抗がん剤による副作用の症状	<ul style="list-style-type: none"> <li>抗がん剤の副作用で、頭髪が見る見る抜け始めたときはパニックだった。個人差があるとはいえ心の準備ができておらず、うろたえた。</li> <li>抗がん剤の副作用で足がしびれ、足首から足先にかけて冷たく、体がふらつくのでつらい。</li> <li>爪がだんだん紫色になり、また肌の色も赤黒くなりつつあり、虫さされやちょっとした傷でも赤くあとが残り、シミも増え情けなく思う。</li> </ul>
11-1-2	抗がん剤の副作用の持続	<ul style="list-style-type: none"> <li>手の痺れは軽くなったが、両方の足先の痺れが土踏まずまであり、何年経ったらこの痺れは治るのか、またこの先歩けなくなるのではないかと悩んでいる。</li> </ul>
11-1-3	放射線による副作用の症状	<ul style="list-style-type: none"> <li>放射線治療時、吐き気があり食欲もなく、毎日悩んだ。</li> <li>放射線治療後は体力がおちる。発熱し3~4日職場に行けず高熱に悩まされている。</li> <li>放射性肺炎ということで、すぐ息切れがし、咳が出る。</li> </ul>
11-1-4	放射線による後遺症	<ul style="list-style-type: none"> <li>放射線治療のため、現在も口唇の乾きがひどい。喉が常に乾いている。</li> <li>唾液が出ないので、夜、口の中が乾き眠れないこと。</li> <li>唾液が出ないので、喉が痛くて食事が進まないこと。</li> <li>放射線で目が白内障、緑内障になり見えにくく、時々痛くなる。鼻血も出る。</li> <li>副作用により唾液が出ないことと味覚がないこと。何を食べても同じ味で現在1番困っている。</li> <li>放射線の副作用から舌が感じず、食欲がなくなり体重も落ち、腰とか足の関節が痛み出した。夜はゆっくり眠れず、痛みがこれからどうなるか不安。</li> </ul>

11-1-5	術後後遺症	<ul style="list-style-type: none"> <li>・（肺手術後）呼吸困難のため、対話や歩行に悩んでいる。</li> <li>・大きく切除してあるので上衣をつけるのに型を整えたり、大変な汗をかいたりで困っている。</li> <li>・手術後、足のむくみがひどく、また頭にガスが充満しているようで常に頭が重く、先生にお尋ねしたけれどわからないとの返事で心配。</li> <li>・手術後の後遺症によるビタミン欠乏症と糖尿病の合併症で通院してリハビリもやっている。</li> <li>・左足の一部（骨、皮膚）を口に移植したため口腔内に毛が生えて、困っている。</li> </ul>
11-1-6	排尿障害による症状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・頻尿（1～2時間）。手術後、2ヶ月過ぎた現在も1日に20～30gの尿漏れがある。</li> <li>・自尿ができるまでに時間がかかり、自信をなくした時期もあった。リンパ液の排液用の管が腹部二ヶ所に入っており、なかなか排液量が減らないのに抜去することにすごく不安をもった。</li> </ul>
11-1-7	排尿障害による日常生活への影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自尿ができなくなり、自己導尿指導を受けて残尿測定をしていたが、現在は完全に自尿できず1日何回も導尿するのが苦痛である。また、毎回の尿量測定及び記録が煩雑である。</li> <li>・遠方で働く娘の所に行ってみたいが、排尿障害があり失禁のため、長時間の外出及び外泊ができない。</li> </ul>
11-1-8	排便障害による症状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日のお通じがなく、20日以上から1ヶ月間も続くと心配が大きくなり、また痛みや苦しみが私を不安に落とす。下剤をかけてもほんの少ししかでないのがこれがいつまで続くのか。</li> <li>・便が1日10回以上あり、何日も続いた。便所に行くまで間がもたないで漏らすことがたびたびあったので、手術後6ヶ月程おしめをつけたが、正常に戻らないのではないかと悩んだ。</li> </ul>
11-1-9	排便障害による日常生活への影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下痢に近い便の時にトイレまで間に合わず、下着を汚すのが悲しい。この時は紙パンツにはきかえているが、その兆候をつかむのにまだ時間がかかる。</li> <li>・胃全摘によりしばしば水様性下痢をする（1週間に1回位）。</li> <li>・1回目の手術の後、直腸をほとんど取ったので便意をもよおすとすぐ出てしまう。このままずっと便はオムツによらないといけないうちかと思うと一年ぐらい外出ができなかった。</li> </ul>
11-1-10	人工肛門の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今は週2回洗腸をする。時間が1時間位かかりづらい。</li> <li>・3回目の手術のとき、ストーマの位置が変わり凸凹になって、ストーマの装具がつけにくい。また、剥がれやすく困っている。</li> <li>・パーキンソン病で手が震え、パウチ交換が自分でできない。介護者がいれば可能かもしれない。</li> <li>・ストーマになったので、まず自分に合ったパウチを見つけるのが大変だった。</li> <li>・ストーマを使用しているので便がいつ出てくるのかわからず、また、エアフィルターがつまってしまう。</li> </ul>
11-1-11	人工肛門による症状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストーマで皮膚が引っばられる感じで局部が痛む。</li> <li>・ストーマの入口の外・内側にずっと痛みがある。</li> <li>・装具取り付け箇所が肌荒れして痛い。外出しない時は「カップ」で押さえている。肌荒れしない方法はないものか。</li> </ul>
11-1-12	人工肛門によるストレス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人工肛門となり、排便方法と、夏季はパウチがはずれやすくなり人工肛門の周囲の皮膚がただれるので、精神的な苦痛があった。</li> <li>・人工肛門となったので、毎日の生活の中で不自由な面が多く、ストレスがたまる。</li> <li>・「人工肛門と一生付き合い合わなくてはならないこと」これが私の悩み。</li> <li>・人工肛門仮設術をしたため、人工肛門による排泄に悩んだ上、仮設肛門の復旧（廃止）時期、可能性について悩んだ。</li> </ul>

11-1-13	<b>人工肛門による日常生活への影響</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 番困ったことは風呂での洗髪とストーマの扱い方だった。病院でのストーマ製品の使い方やストーマのケアも中途半端なままだったので苦労した。</li> <li>・ 仕事の関係上、酒やビールを配達するが夏は特にストーマの袋がはげる。1 日 2~3 回ははげる。はげると服や下着がどろどろになり妻に見られないように捨てている。</li> <li>・ 人工肛門をつけたので、温泉や人の集まりの中に行くのが心配で外出はなるべく控えている。</li> <li>・ 人の中に出たときはガスが出ないように気をつかう。食事等も食べる物によって下痢、ガスに悩んだことがある。</li> <li>・ ガス発生音の解消はできないか、また、発生時を自分で調整できないか。</li> </ul>
11-1-14	<b>将来の人工肛門管理</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 老人になって自分が介護される立場になった時、装具のこともあるので介護する人は嫌がるだろうなどと思う。</li> <li>・ 取替えも単独でなかなかできず、妻に頼りきりで将来が心配。</li> </ul>
11-1-15	<b>リンパ浮腫による症状</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 患部側の上肢のむくみ（腫れ）がひどくなり腕が上がりなくなった。</li> <li>・ 疲れるとリンパ腺がつるようになり、肩が張る。</li> <li>・ 治療直後から足のつけ根から下にかけてむくみ、張る感じがした。今は特に足首から下に向かって痛みなどがある。足の指先が特に痛みを感じる。</li> <li>・ 1 年 6 ヶ月となるが、未だに左腕が思うように動かず、だるい、むくみ、左胸が痛い、などの症状がある。</li> <li>・ 術後会社復帰をして、しばらくした時左足がむくみ、大きくなってしまい、現在歩いても何をしてもむくみが激しくなった。</li> </ul>
11-1-16	<b>リンパ浮腫による日常生活への影響</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ リンパ浮腫になったため、日常生活が少し不自由になり、肉体的にも精神的にも大変であった。</li> <li>・ スカートをはけない、靴をはけない、左右の足の大きさが違う。</li> <li>・ 左腕がはれ、しびれて力が入らなくて、家事・仕事が思うようにできない。</li> <li>・ 足のむくみがだんだんにひどくなり浮腫と診断され、またその治療方法がないと判断された。仕事も休みがちになり退職せざるをえないはめになった。</li> <li>・ 2 年前、ばい菌が入り入院、蜂窩織炎と言われ、今年もばい菌が入った。朝夕外へ出るのも怖い。</li> </ul>
11-1-17	<b>失声による日常生活への影響</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 退院後、声を出す器具を入れ 3 週間から 4 週間で器具を入れ替えているが、その期間中に外れて（2 回）とても困った。すぐ救急で病院に行かなければならないのでいつも不安がある。</li> <li>・ 喉に穴が空いているので、風呂に入る時困る（特に冬期は困難）。</li> <li>・ 電話の対応ができない。</li> <li>・ 喉頭形成式で、思うように話せないのが悩み。穴にタンがこびりつくため日に 2 回は妻に掃除してもらっている。しかし妻がいなくなったとき、年老いたときどうしようと思う。</li> </ul>
11-1-18	<b>失声による社会生活への影響</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 結婚前の子どもたちに、親として今後肉声で何も言ってやれなくなることや、手術で声を失うことにより職場への復帰が難しくなったこと。</li> <li>・ アンプリコーダーによる発声が一般的でないので、外出時、他の人に奇異にジロジロ見られることがある。</li> <li>・ 話が通じないことが 1 番の悩み。最初から話しかけられないのが差別されているように思う。</li> </ul>

11-1-19	<b>失声によるコミュニケーション障害</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人と思うように話ができないこと、食事が思うように摂れないこと。</li> <li>・ 発声が思うようにできないため、多人数と同時にコミュニケーションがとれないこと。</li> <li>・ 言語発声不能（補助具を使用しているが言葉の発生が不十分なこと）。</li> <li>・ 音声を発することに対して体力をかなり要するので、家族内においても社会においてもコミュニケーションをまともにとれなくなった。</li> <li>・ 会話が思うようにいかず、家族とはある程度通じるが（現在は会話の手段として天津式にて発声している）、世間の人とは上手く通じることが難しい。覚悟していたことだが、やはりもどかしくも歯がゆく、いらいらすることが多々ある。</li> </ul>
11-1-20	<b>胃切による日常生活に関する悩み</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 深夜発生する逆流及び下痢症。</li> <li>・ 胃の切除のため、食欲もなくまた食べてもすぐ満腹になり、時々苦しくなり、1番の基本である「食」に対しての楽しみがないのに食事を作らなければならないのはしんどかった。</li> <li>・ 食事のこと、何を食べてよいか迷った。いつから何を食えることができるのかわからない。</li> </ul>
11-1-21	<b>胃切後の影響</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 筋肉がつかないためか、前かがみに立ったり、歩いたり、背を伸ばして真っ直ぐに立つのに苦勞する。歩く時も杖をつく方が楽。</li> <li>・ 胃が1/3になったので、体重が10kgも減少し、体力が落ちた。</li> <li>・ 食後「胃のつっぱり」や「少しの痛み」が数ヶ月も続いたこと。</li> <li>・ 胃の全摘、胆のう、脾臓の摘出手術が施され、午後胆汁が時折逆流することに悩まされた。</li> <li>・ 腹部膨満感（ガスが多く出る）。食事の量が思うように摂れない。</li> </ul>
11-1-22	<b>胃切による食事への影響</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 胃を1/3程度取った結果、栄養の補給がどうして保てるのか不安で、近所の経験者等を尋ね歩いて自分なりに研究したつもりでも不安はあった。</li> <li>・ 食事の時、胃がふくらんで、自分の思うように食べられない。普通に食べられるようになるかどうか。</li> <li>・ 食べれば痛い。痛いのが通常で、痛くないとこんなに幸せなこともあるのかと思う。食べなければ痛くないが、お腹が空く。いつまでこんな生活が続くのかと思うと泣けてくる。</li> <li>・ 食事が順調に進まず、胸にすぐつかえておるまで時間がかかる。元気な時より15kg痩せた。少しずつ太りたいのが悩み。</li> <li>・ 空腹感がなく食欲が出ない。</li> <li>・ 食事の摂り方がわからず、ゆっくりかんで食べてもダンピング症状となる。食事の時間になるとこわい。</li> <li>・ 手術して3ヶ月目頃から食事すると苦しくなり、ない胃のところがギューとしめつけられるように。また食物がつまり、もどす。毎日食事することが恐くなる。食べたい物がたくさんあるのに食べると苦しいから食べられない。悔しい。</li> <li>・ 胃を摘出後、食事が180度変わり、何を食べてもおいしいと思うことがない。魚、肉等は特に手術前は大好きだったが、手術後は全然食べたくない。</li> <li>・ 食後1週間に2~3日は急な腹痛と下痢におそわれるため、外食が不安。職場や友人との食事も足が遠のき、人付き合いが悪くなっている。</li> </ul>
11-1-23	<b>イレウス（腸閉塞）による症状</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年に何回か腸閉塞をおこし、その時の痛みと苦しさは表しようがない。以後便通と食べ過ぎに注意している。</li> <li>・ 時々、腸閉塞状態になり、嘔吐、腹痛に苦しむこと。</li> </ul>

11-1-24	<b>イレウス（腸閉塞）による日常生活への影響</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>頻繁に腸閉塞になるため、その都度入退院の繰り返し。</li> <li>合併症の腸閉塞を併発し、繰り返した。会社の仕事も気になり、軽いうつ病にもなった。</li> </ul>
11-1-25	<b>ホルモンバランスの変化による症状</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前立腺摘出により、ホルモンのバランスがくずれ、体温の調節が突如としてくずれることがある。</li> <li>ホルモン療法によって体重の増加が急激に起きたり、体が疲れやすくなったりなど、以前とは体の状態に変化が出てきたこと。</li> <li>この先このまま太ってしまったらと思うと心細い。投薬のための肥満だと思う。</li> <li>薬（カゾデックス）の副作用で胸がふくらんできたこと。</li> <li>頭重、肩こり、関節痛（腰、ひじ、ひざ、手首、指等）、身体の熱による暑さ、汗、おりものによる不快感等、薬を飲むと状態が悪くなるようで辛い。</li> <li>生理が3週間以上続いたり、間が長くなったり短くなったりすること。</li> <li>骨、腰痛、膝痛、副作用らしいが時々汗が流れるように出る。気をつけることはないか。</li> <li>1年間ホルモン剤を飲んだ結果、副作用と思われるが、目が少しみえにくいような気がする。</li> </ul>
11-1-26	<b>ホルモンバランスの変化による日常生活への影響</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在ホルモン療法を行っているが、薬の副作用で困っている。目の周りのかゆみ、陰部のひりひり感があり、入浴時にボディソープがしみたり、かゆみがあったりする。婦人科で診察を受けたら粘膜が薄くなっているとのこと。</li> <li>1～2時間おきにホットフラッシュが起こる。時と場所を選ばないため仕事中などは汗をふきながら仕事をしなければならないし、夜寝ている間にも1～2回目を覚まし、おさまるまで寝つけない。これから夏に向け特につらい日々が続く。</li> <li>発汗とほてりのため、夜ぐっすり眠ったことがない。</li> </ul>
11-1-27	<b>性機能障害による症状</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>悩むほどのことではないが、欲をいえば勃起不全。</li> <li>性欲がなくなり、性交は不能な状態である。</li> <li>神経の切断で男性として機能の停止している不満、不自由。</li> <li>男性機能喪失を告げられ、性生活も不能だと言われた。</li> </ul>
11-1-30	<b>人工膀胱の取扱い</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>老夫婦のため、将来のストーマ取替えが1番の心配。</li> <li>便と尿の2つの袋を付け、その処置や未だに手術の傷あとが回復せず、血抜きチューブが取れず、1日3回もガーゼの取り替えが必要だったり再度肺に影が出ていたり、今は生きることにも悩みを感じる。</li> </ul>
11-1-31	<b>人工膀胱の症状</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>尿の出口、腹部のまわりの皮膚が赤くなり、ガーゼがむれるとチクチクかゆみがあり、塗り薬をつけても治らないこと。</li> <li>人工肛門、人工膀胱使用による人にはわかってもらえないかゆみや痛み、不便さ不安、生きていく限り続くのかと。</li> </ul>
11-1-32	<b>人工膀胱によるストレス</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>慣れないので、いらいらしたり途中でもれてしまったりして困ったこと、つらいことは何回もあった。</li> </ul>
11-1-33	<b>人工膀胱による日常生活への影響</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>尿の臭いが腹の穴より出てきて臭うこと。病気と思って諦めているが、他人は嫌なことと思っているだろう。</li> <li>人工膀胱は外観的にはわからないが、小便の出る時間が30分～1時間くらいで短く、遠出するのに不便。もちろん遠出の場合はパット（尿取）を使っている。</li> <li>外出した時、人のいるトイレで気軽にストーマを洗えないこと。</li> <li>健康センター、温泉地に出かけても障害者用施設があまりないため、お風呂も宿も遠慮がちになる。</li> </ul>

11-1-34	<b>手術による日常生活への影響</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外科手術を受けたら言葉が言えないし、食事が出来ないし大変困った。それから主治医の先生と2人で、1年間食事の練習と言葉の練習をマンツーマンでやった結果、少しずつ良くなった(先生には頭が下がる)。</li> <li>・ 食事がうまく摂れないこと。胃液や唾液、げっぷが出て食欲が出ない時がある(薬を服用するとだいぶ楽になる)。</li> <li>・ 嗅覚がなく何も臭わないのがつらい。</li> <li>・ 退院後すぐに液がにじんできて、救急で診てもらいに行った。大丈夫だと言われたが、お風呂に浸かるのにだいぶかかった。</li> <li>・ 手術のあとの傷がかわくまで1年かかった。退院してから傷の消毒を毎日家でしていたが大変だった。</li> <li>・ 車に乗るのでシートベルトが痛くてできない時があり、検問で説明したら証明書をもらうように言われた。病院で「しなくても良いと言うことは書けない」と言われどうしていいかわからない。</li> </ul>
11-1-35	<b>性行為の影響</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ マスターベーションをするとオーガズムを感じ射精はしても、もちろん精液ではなく尿が排出される。体への影響が心配。</li> </ul>
11-2-1	<b>持続する症状</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少し歩くとめまいがしたり、息苦しくなったりする。</li> <li>・ 副作用と両肺胸水を抜いてから動くとしんどい。</li> <li>・ ケロイドのため1日数十回チクチク、あるとき突然切り裂かれるような痛みで悩まされた。</li> <li>・ 現在抗がん剤点滴治療中で薬の副作用かもしれないが、全身の倦怠感、手足の冷え、下痢、便秘の繰り返し等ある。</li> <li>・ 現在も耳鳴り、不眠、筋肉痛がある。神経の集中する首を3回も手術したり照射したりで命令系の神経が痛み、不眠。排泄(大小)も薬に頼って自然にはできない。</li> <li>・ 毎日昼頃からの39度近い発熱、解熱剤服用で3時頃より平熱になるが、この状態が2週間近くも続いていること。</li> <li>・ 7ヶ月腎瘻を使った。それを外してもらうために相当悩んだ。</li> <li>・ がん手術の半年後「带状疱疹」になり、現在もその痛みがある。</li> <li>・ 移植後、様々な感染症、間質性肺炎をはじめとする合併症があり悩んだ。</li> <li>・ 治療時とその後の薬の副作用。粘膜系がボロボロ。食事がとりづらい。目を開けているのがつらい。両眼とも白内障になってしまった。以上より仕事(事務職)がしづらくなってきている。体全体が硬く(萎縮)になっている。動きが悪くなっている。</li> <li>・ 胃がんの手術の傷口にMRSA菌がついて退院してからも毎日消毒に通院しているが、傷口がふさがらない。</li> <li>・ ホルモン剤(ノルバデックス)を服用継続している。肝機能異常があり、脂肪肝だろうと言われていているが、肝硬変になるのではと不安に思う。</li> <li>・ 抗がん剤を飲んでいたが、肝臓がそのせいで悪くなってしまい、薬を止めている。今は薬を飲んでないが、一向に肝臓が良くなるのでそれが心配。</li> <li>・ 左腎不全の後遺症で悩んでいる。時々右腎機能のことで心配になる。</li> </ul>

11-2-3	<b>その他の症状による日常生活への影響</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>胆のうも一緒に手術し、今まで食べられていた物が全然食べられなくて、特に油物を食べると胸がむかつくし、ほうれん草、小松菜も臭くて駄目になった。食べる物が1番の悩み。</li> <li>食事は一生流動食。食べればストレスとの闘い。</li> <li>味覚と臭覚がもどらないので、食事の支度に差し支え、外食が多くなっている。</li> <li>食事の際のどに異物がひっかかり、ひどく咳き込む時があり、呼吸困難になる。そのまま呼吸が停止しないかと悩んでいる。</li> <li>手術した後、つらかった。しびれで眠れなかった。今も薬で眠っている。</li> <li>疲れやすく、自動車運転2時間位で背中が痛む。</li> <li>食欲も減り、毎朝の運動（歩き）もしだいにでき難くなっている。</li> </ul>
11-2-4	<b>がんに伴う身体的症状</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>咳が止まらないことが大変苦痛（胸水のため）。</li> <li>右顎骨、顔面（右側）が痛みだし、気がついたら口の中の右側は溶けてしまった。痛みが頭の上まで走り、頭にお椀が乗ったような状態で起きているのもつらいくらいとなる。そのうちに顎（右）の骨が腐りはじめ壊死が進んでいき、手の打ちようがないと言われる。</li> <li>腹水がたまり横に寝ることができなくなった時、手術したところが破れ、膈より腹水がどんどん流れ出はじめた。痛みがないのは救いであるが、この腹水がいつ止まるかと、絶望的になり、病院を脱走すること、自殺することなどばかり考えていた。</li> <li>私は腎臓が片方悪く（水腎症）、どの薬でもいいというわけではないため、この先あう薬があるかどうか心配ばかりしている。</li> <li>放っておいたので骨、肺、骨髄に転移あり。血液がつかれないため輸血を3リットルし、化学療法での副作用で、また治験でのテタニー症状と呼吸困難でよくなるのだろうか、大丈夫だろうかと悩み、恐怖心があとをたたなかった。</li> </ul>
11-2-5	<b>がん以外の病気による症状</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同時進行中の病気（腰痛、白内障、通風など）との関連。治療者の実例とその方法に対する情報を知る方法を知りたい。患者本人が自らなすべきことは何か。</li> </ul>
11-3-1	<b>治療後の生活・健康管理</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発病前と比べ体調がかなり変わったので、自分の体調、体質をよく理解できない。</li> <li>習慣を変えるための毎日の気づきが大変。特に飲酒の機会は多いし、周辺は喫煙者でいっぱい。</li> <li>手術後3年、何を注意していけばいいのかわからない。</li> <li>糖尿病の再発により健康に必要な野外での運動（散歩等）ができなくなり、日中横になっていることが多く、日常生活が普通にできなくなった。</li> <li>唾液不足、味覚不良で食事が進まず、発病前の体重より19kg減のままで全然肥らず、食事による栄養不可で免疫力、治癒力低下を恐れ悩んでいる。</li> <li>体力のおとろえ、シャワーしただけで100m走ったような感じ。</li> <li>毎日体に痛みを感じている。手術後より体調が思わしくなく傷口が気になったり、元の体調に戻らないものかと思ったりするために精神的に疲れやすく何事にも集中できないことがある。</li> <li>術後のリハビリがつかかった。</li> </ul>
11-3-2	<b>罹患前の生活とのギャップ</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>放射線治療を終わり退院したが家事が出来ず、少し動いては横になりながらの毎日で、物を持って歩くことが出来ない。</li> <li>治療が終わって1年が過ぎるが、未だに体の方はすっきりしない。食事、生活の中で色々な症状が出るたびに本当に元の体になるのだろうかと思いが不安。</li> <li>羅病前の体力・気力を取り戻せないことによる生活の質の低下。</li> </ul>

## 12 不安などの心の問題

12-1-1	<b>再発・転移の不安</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一生「再発」、「転移」という言葉におびえて生きていかなければと思った。</li> <li>・ 転移していると告知されたが、今後余命がどの位かと思うと家族にも話せず、心身共に悩み苦しんだ。</li> <li>・ 外科手術を受け、1度は治ったと思い安心したが、再発と言われた時が1番つらく悲しかった。</li> </ul>
12-1-2	<b>将来に対する漠然とした不安</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 喉頭がんのために手術で声が出なくなってしまうことに、大きなショックを受けた。</li> <li>・ ストーマをつける生活をしなければならぬと言われ、日常生活にどんな支障がでるか不安だった。</li> <li>・ がんと診断されて手術することになったが、手術が成功して元の身体に戻れるかを心配した。</li> <li>・ あとどのくらい生きられるのか、治るとしたらどのくらいの期間治療するのか悩んだ。</li> <li>・ 治療がうまくいき少しでも長生きできるのか、また完治できるのか不安だった。</li> <li>・ 抗がん剤の副作用（嘔吐、髪が抜ける）に対する不安があった。</li> <li>・ 子どもの進学にお金のかかる時期でもあり、将来への治療費の不安が大きかった。</li> <li>・ 自分がこの先どうなっていくのか、青写真が全く描けなかった。</li> <li>・ 治るにしても進行するにしても、自分の病状がどのような経過をたどるのか知りたかった。</li> <li>・ がんがどれくらい進行しているのか悩んだ。</li> <li>・ 未婚のため、今後、結婚できるか悩んだ。</li> <li>・ 胃がんと知らされ、食事を制限しなければならぬかと悩んだ。</li> <li>・ 手術してもまた再発するのではないかと、今まで通りの生活ができるのかと悩んだ。</li> </ul>
12-1-3	<b>がん罹患による親しい人との関係性の変化</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 夫婦生活を続けていけるのか、または離婚した方がよいのか悩んだ。</li> <li>・ 婦人科の病気のため、（交際相手と）結婚したいと思ってよいか、どう説明したらよいかで悩んだ。</li> </ul>
12-2-1	<b>死を意識</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ がんと言われただけで「死」ということを考え悩んだ。</li> <li>・ あと何年生きられるのかと思い、ただただ不安だった。</li> <li>・ がんと診断されたときは、がんイコール死という知識しかなかったので、頭の中は真っ白になった。</li> <li>・ 自分の死を、いつどのような形で迎えるのか考えた。</li> <li>・ 知人ががんで死亡したのを思い出し、私もあの痛みを耐えて死を迎えねばならないのかと悩んだ。</li> <li>・ 医師より即手術をしなければ駄目と言われ、死に対する恐怖心で非常に悩んだ。</li> </ul>
12-2-2	<b>がんを意識</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 抗がん剤を打つと医師から言われて、がんであることを感じた。</li> <li>・ 再発については非常に敏感になっており、どこか痛いと思いがちになる。</li> <li>・ 入院して、がん治療をしている人達の姿を初めて見て、自分の先々に置き換えて恐怖を感じた。</li> </ul>

12-3-1	<b>精神的動揺・絶望感</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ とにかく頭が真っ白になった。どうにもしようがなかった。</li> <li>・ 青天の霹靂のようなショックを受けた。</li> <li>・ 自覚症状がなく、何かの間違いではないかとなかなか信じられなかった。</li> <li>・ がんと診断された日は目の前が真っ暗で、体の力が抜け、何もすることができなかった。</li> <li>・ 予想もしない病名で、幸せな暮らしが足もとから崩れて行くような気持ちになった。</li> <li>・ 何で自分がこんな病気になってしまったのかと思った。</li> <li>・ 何がなんだかわからず、自分自身を見失った。</li> <li>・ 口では言えないほど悲しく、この世に神も仏もないものかと思った。</li> <li>・ がんと診断されてショックを受け、仕事も手につかず夜眠れない毎日だった。</li> <li>・ 自分だけが「がん」という種類の人間に分類されてしまったような孤独感を感じた。</li> <li>・ がんであることを受け入れたくなかった。</li> <li>・ 初期だと言われたが、本当はもっと進んでいるのではないかなどと、悪い方にばかり考えた。</li> <li>・ もう私は死ぬのだと、頭の中は恐怖感でいっぱいになった。</li> <li>・ 自覚症状があったのに、早く診断を受けなかったことへの後悔があった。</li> <li>・ 毎年健康診断をし、食事にも気をつけていたのに、がんになってしまったことが悔しかった。</li> </ul>
12-3-2	<b>持続する精神的な不安定感</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ もうだめかと思い、日々不安であった。</li> <li>・ がんは不治の病であるという観念があり、自分の命もこれまでかという強い落ち込みがあった。</li> <li>・ がんが手遅れではないかなど、死を意識して毎日緊張の連続で気分が落ち着かなかった。</li> <li>・ これで自分の人生は終わったかと、不安と恐怖感で生きていく気力を失った。</li> <li>・ 抗がん剤を注射してもがんが増えている。効果があまりなかったのではないか。</li> <li>・ がんと診断された後、頭の中は死でいっぱいになった。いらいらしたり、言葉が乱暴になったりの毎日だった。</li> <li>・ 術後 2 年間位食欲がまったくなく、味覚障害もあり、食事が非常に苦痛だったため、死んでしまいたいと思った。</li> <li>・ がんに対する具体的な知識を持っていない不安が強く、どう対処すべきか悩んだ。</li> <li>・ 病気になってからお酒を飲むようになった。</li> </ul>
12-4-1	<b>社会的な要因による抑うつ</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 働けなくなったために住宅ローン、病院代の支払いに追われ、自分を責め追い込み、うつ病になった。</li> <li>・ 経済的なこと、子どもの障害に心配を感じ、うつ病になった。</li> <li>・ 職場復帰への心配が大きかったことがストレスになったのか、パニック障害になり、心療内科にかかった。</li> </ul>
12-4-2	<b>将来への悲観を要因とした抑うつ</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 痛みによる苦痛が続き、このまま自分のことができなくなることに不安で、死んだ方がましだと思った。</li> </ul>
12-4-3	<b>身体的な要因による抑うつ</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2 年続けてがんを発症したため、パニック症状になり、「うつ」状態になった。</li> </ul>

### 1 3 生き方・生きがい・価値観

13-1-1	<b>運命のはかなさ</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人生としての生活の操り糸が切れ、何の言葉もない。</li> </ul>
--------	----------------	--

13-1-2	生と死	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 楽になりたいという反面、生きたいという気持ちもあった。</li> <li>・ 末期の不安があり、残りの人生の生きる意味が見つからない。</li> <li>・ がんと診断されて、死が現実に出てきた。今までの人生これで良かったのだろうかと考えた。</li> <li>・ 再発を繰り返し、病弱な体はますます衰弱して、みじめな姿をさらしながら死んでいくのか。パッと散るように死にたい。</li> </ul>
13-2-1	「がん」罹患後の生き方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ がんをどのように自分自身が受けとめるかという精神的な面での葛藤が長く続いた。</li> <li>・ 今後の人生はがんと共生しなくてはならないのかと悩んだ。</li> <li>・ 生命は助かっても、介護は必要になるのか、社会的活動は出来るようになるかと悩んだ。</li> <li>・ どんな方法で自分の気持ちをプラス思考にもっていったらいいのか。</li> <li>・ これから先の見通しや生きがいもなく、どうしたらいいのかわからない。</li> </ul>
13-3-1	外見の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乳房を切除したので、温泉や公共の大浴場に行った時に、人目を気にして楽しく入浴できない。</li> <li>・ 鼻の神経芽腫のため、顔や頭に手術の跡が残り、また放射線の後遺症で皮膚が再生されず、醜い容姿になってしまった。</li> <li>・ 乳房を全摘したので、セーター類が思うように着られず、ブラジャーも両方同じ感じにならないので、夏は特に困っている。</li> <li>・ 抗がん剤治療で髪が抜けることも先生に言われ、髪やまつ毛まで抜け、人相まで変わることを辛く思った。</li> <li>・ 退院した頃、(乳がんの)手術の傷口の処置を夫に手伝ってもらいたくなかった。</li> <li>・ 抗がん剤の副作用で外見が変わってしまい(脱毛、爪の変形)、人に会う気力がなくなり、用事で外出することもストレスとなった。</li> <li>・ 抗がん剤の副作用でかつらになってしまい、それを気にしすぎて以前より5割くらいしか自分が出せなくなった。</li> <li>・ 乳がんの手術をしたため、複数の医師に胸を見られることが辛い。</li> </ul>
13-3-2	女性性・男性性の意識・変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乳房切除により女性でなくなったような気持ちになった。</li> <li>・ 子宮をなくしたことで、夫婦間のことや女性としての自分のこと等に自信が持てなくなった。</li> <li>・ 男性でなくなることへの失望感があった。</li> <li>・ 女の象徴である乳房を両方も失い、夫が近寄りなくなってしまった。夫婦関係もうまくいかなかった。</li> <li>・ 妊娠中だったので中絶したことを悩み、後悔した。そして、今後、子どもができないことを悩んだ。</li> </ul>
13-3-3	自分に対する認識の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不治の病と言われるがんにかかったことで、社会的に不要になってしまうのではないかと。</li> <li>・ 入院しているときは自分を受けとめることができなかった。</li> <li>・ これで一生が終わりなのかと、家のこと、今後の生活のことなど、考えれば考えるだけ自分自身が情けなく嫌になった。</li> <li>・ 手術後の体の変化や化学療法の副作用のために家に閉じこもりきりになり、今の自分は社会からはじき出された役立たずだと自分を責めた。</li> <li>・ 社会からとり残されているという気持ちがあり、自分の存在感を無意味に感じた。</li> <li>・ 病気を知らない人と接する時、自分自身が一歩引いてしまう。</li> </ul>

## 14 就労・経済的負担

14-1-1	がん罹患による経済負担の影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>家のローンがたくさん残っているが、返せるか。</li> <li>商売をしているため、銀行に借入があるが、家族の負担にならないように整理していかなければならないことが悩み。</li> <li>住宅ローンを借りることに制約がある（団体信用、生命保険）。</li> </ul>
14-1-2	医療費	<ul style="list-style-type: none"> <li>治療費が高額であることが1番の悩み。</li> <li>半年間におよぶ外来での治療費が月10万円前後かかり、これから先、どの位長い間お金がかかるのかと思う。</li> <li>今まで病気をしたことがなかったので、生命保険には入っていなかった。仕事も休職中で経済的負担が大きくて心配。</li> </ul>
14-1-3	経済面における今後の生活への不安	<ul style="list-style-type: none"> <li>老後の経済的なこと、これから先の生活、老後のことが心配、不安。</li> </ul>
14-1-4	がん罹患による収入減	<ul style="list-style-type: none"> <li>自営業のため、入院によりまったく収入がなくなった。</li> </ul>
14-1-5	保険適用外治療等への支出	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康食品にかなりお金を使い、経済的に苦しい思いをしている。しかし、命には替えられないので無理をしている。</li> <li>リンパ浮腫の治療には健康保険がきかないので経済的負担が大きい。</li> </ul>
14-2-1	がん罹患による仕事への影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間ドックで診断結果が出て、入院、手術と大事になるとわかった時点で、仕事を長期に休むことへの対応に悩んだ。</li> <li>食事の量や時間が他の人と合わず、人間関係が気まづくなった。特に、営業活動の得意先への接待等が上手くいかなかった。</li> <li>一旦採用が決まったのに、採用時の健康診断でがんになったことがわかると採用を取り消された。</li> </ul>
14-2-2	仕事復帰・継続への不安（雇用者）	<ul style="list-style-type: none"> <li>会社への復帰時期も悩みの種。どれくらい休業すればいいのか検討がつかず、先が不安だった。</li> <li>周囲に負担をかけてまでも現在の仕事を続けるべきか、退職するべきかの選択に悩んだ。</li> <li>治療のために週に1度仕事を休む必要があり、職場に迷惑をかけるため、退職しなくてはならないのではと心配。</li> </ul>
14-2-3	仕事復帰・継続への不安（経営者・自営業者）	<ul style="list-style-type: none"> <li>商売ができなくなることが残念で悩んでいる。</li> <li>事業主という立場から、現在の不況の中で病身を抱えて果たして事業が継続できるかと不安だった。</li> </ul>
14-2-4	職場での人間関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>職場において腫れものにさわるとく接せられた。</li> <li>抗がん剤治療をしながら仕事を続けることで、周囲の人が気をつけているのがわかり、それが苦しかった。</li> <li>この病気に対する職場の理解が得られにくい。</li> </ul>
14-2-5	リストラ	<ul style="list-style-type: none"> <li>通院等により休みがちになるため、自分がリストラされるのではという不安を感じる。</li> <li>残業もできない体調のため、会社は解雇された。</li> </ul>

## 15 家族・周囲の人との関係

15-1-1	がん罹患に伴う周囲の反応	<ul style="list-style-type: none"> <li>周囲が心配して声をかけてくれても、がんのことには触れないで欲しいと叫びたい気持ちだった。</li> <li>病気のことを周囲に知られてから、言葉巧みに宗教、いかがわしい健康食品、薬品等を押つけられ、人間関係がぎくしゃくした。</li> <li>術後経過が順調で体重も元に戻ったところ、周囲から驚きの眼で見られて大変ショックを受けた。</li> <li>友人から、まるで病気がうつるかのようになんて言われて困った。</li> <li>がんになったら友人がいなくなった。</li> </ul>
--------	--------------	---

15-1-2	友人・知人・近隣への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 近所つき合い等で私の身体的変化（痩せた）をどう説明すればいいか悩んだ。</li> <li>・ 親戚や近所の人に（がんの罹患を）知られないよう、元気に見せかけているのが1番つらかった。</li> <li>・ がんと知られると周り（近所の人、友人）から、哀れみを受けたり、噂されたりすることがつらかった。</li> <li>・ 周囲に自分の病気を話していいのか、またどの時点で言うのが適切か悩んだ。</li> <li>・ 死期の迫る恐怖を誰にも言えない自分自身の心の葛藤に苦しんだ。</li> <li>・ 頭髪がない頃、病院に通院する格好や知り合いに知られたくないことで悩んだ。</li> <li>・ 田舎なので、がんという病名で近所の噂になるのが嫌で悩んでいた。</li> </ul>
15-1-3	社会からの孤立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1人暮らしなので、いつ何が起こるだろうかといつも考えている。</li> <li>・ ショックでうつ状態になり、家の外へ出られなくなった。</li> <li>・ 独り身なので相談する相手もなく、どうしたら良いかわからなかった。</li> <li>・ 独居のため、入院すると一般世間とのつきあいが遮断され、情報や交際に支障をきたすことが苦になった。</li> <li>・ 入院時に保証人になってもらう人がなかなか見つからず、非常に悩んだ。</li> <li>・ 予後が悪かった場合、子どもがいないため誰に面倒を見てもらえるか。</li> </ul>
15-1-4	社会生活への影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病気をする前と同じように、人のために働けるかどうか心配だった。</li> <li>・ 食事が思い通りにいかず外食が困難なので、いろんな会合に出られない。</li> </ul>
15-1-5	今後の社会生活への不安	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病気にかかる前と同様に生活し、社会復帰できるのだろうかと考えた。</li> <li>・ 同居人がないので生活やその他に心細い。</li> </ul>
15-1-6	地域との関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 近所の人に病気を隠しているため、町内の行事に参加できない時に、さぼっていると思われるのが負担である。</li> <li>・ 地域社会との関わりが難しくなり、家庭にも余計な負担を掛けた。</li> </ul>
15-1-7	同病者との関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これほど多種多様な後遺症があるのに、医師の説明や体験者の本音を聞くことが難しい。</li> <li>・ 若い年齢で診断を受けたので、周りに体験者がほとんどいなかった。</li> </ul>
15-1-8	社会におけるストレス増	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これからの仕事関係や人間関係が心配だった。</li> <li>・ 手術で子宮が失われ、交際相手から子供が産めないなら結婚できないと言われた。</li> <li>・ 余命を宣告され、結婚を約束していた人に別れを告げられた。</li> <li>・ 周囲の人に「2人目（の子ども）は」と聞かれ、病気で妊娠できないことを説明しても理解してもらえず、何度も情けなくて惨めな思いをした。</li> </ul>

15-1-9	情報・メディア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分のがんはどのような種類でどんな治療方法があるのか。</li> <li>・ 色々な体験談や情報、身近な死亡説に振り回されて、どうしたらよいのかわからなくなった。</li> <li>・ 有名人のがんで亡くなった時のマスコミのセンセーショナルな扱い（壮絶ながん死などのタイトル）が目に入ると、とても苦痛である。</li> <li>・ 新聞などにアガリクスでがんが消えると書いてあるが、それは本当か。</li> <li>・ 社会で元気にしている人がいるかを本などで探したが、同じ病状の人は見つからず、生きることに対する不安は消えなかった。</li> </ul>
15-2-1	配偶者との関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家内に何の加勢もできず、逆に世話をかけるのが気の毒。申し訳なく思っている。</li> <li>・ 70才代の家内が肝臓、心臓、膝、腰、肩が痛むのをこらえ、家のことの他に私の看病までしてくれるのが1番の悩み。</li> <li>・ 自分としては比較的冷静だったように思えるが、妻がショックで倒れて入院。それが1番気掛かりだった。</li> <li>・ 塾を主人と2人で営んでいたので、私が入院することにより代わりの講師をさがし、主人1人に仕事全部を任せなければならなくなり、主人の健康が心配だった。</li> <li>・ 夫婦同じラインに立っていたのが、私だけ一歩下がったような気がする。</li> <li>・ 夫婦間でしこりができた。1年間の入院で妻との会話がなくなった。養子はつらい。</li> <li>・ 診断された時は助かる状態でなかったもので、家内1人になってしまうことを心配し、手術後悪い結果であれば、兄弟等に頼むことを考えた。</li> <li>・ もしもがんで死ぬようなことがあったら家で最期を迎えたいが、夫は面倒を見てくれるだろうかと不安になる。</li> <li>・ 現在老妻と二人暮らし、子どもはあてにできない。妻も病身なのに家事や畑仕事で無理をしている。前ほど手助けできないので、妻の体が心配。</li> <li>・ 子どもがいないため、今後妻が生活するためどうすればいいのか。</li> <li>・ 夫に迷惑をかけたくない。自分のしたいことをせずずっと世話をしてくれる夫に、これ以上精神的にも肉体的にも負担をかけたくない。</li> </ul>
15-2-2	配偶者との関係で困っていること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病気のこと介護や将来のことなど夫婦間に亀裂が生じ、現在離婚調停中。</li> <li>・ 夫が家を出たこと。診察を受けた時も医師から説明をされた時も夫の助けを受けられなかった。</li> <li>・ 夫の無知さ加減。</li> <li>・ 夫のたばこの煙がつかった。全く思いやりがなく悲しかった。</li> <li>・ 生まれて初めての病気、しかも大病であったにもかかわらず16年連れ添った主人から「好きで（病気）なった」の一言。手術後この人と別れたいとずっと悩んだ。</li> <li>・ 手術後、身体的変化を自分も認めたくなかったし、夫も受け入れることに時間がかかり、女性としてみるができなくなったようだ。</li> <li>・ イライラして、主人につらい気持ちをぶついたりしていた。</li> <li>・ 結婚してずっと主人が優しくしてくれたこともなく、がんになってますますひどくなり、主人の暴力や冷たい態度に悩んでいる。</li> </ul>

15-2-3	<b>家族全体との関係</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年若い母の介護をしていたので、入院したらどうしようかと。</li> <li>・ 自分が入院、治療を受けている間の家族への負担。食事等家事一般。</li> <li>・ 少しでも身体の調子が悪いと、家族が心配して受診を勧める。家族に心配をかけていることが情けなく思うこともある。</li> <li>・ 子どもが大人になったら主人と2人どんな老後を送るのだろう、そう考えていたのに。みんなと別れたくない。死にたくない。</li> <li>・ 家族に精神的にも金銭的にも体力的（娘がほとんど家事をしてきている）にも負担をかけていることでもかなりうつ状態になっていた。</li> <li>・ 現在同居している末娘は子どもが一人あり、私の看病とか家事で思うように働けない。このまま親の世話で花のある時を朽ちてしまうのは可哀想でならない。</li> <li>・ 介護が必要な家族がいるため、手術、入院の期間中は自宅においておけず、施設に預けなければいけないのだが、入院日などの決定が実際でなかなか手続きできずに困った。</li> <li>・ 家族の迷惑にしかかっていないのではないかと悩んでいる。</li> <li>・ 母親より先に死ぬことは親不孝だと思い辛かった。</li> <li>・ 自分のことだけで精一杯なのに、弟達がいっても、誰一人長男の嫁ということで手伝ってもらえなかった。</li> <li>・ 再発するかもわからないと絶えず不安で家族に当たり散らすことが再々あり、何とか自分の平常心を保つことができないかと思う。</li> <li>・ 子どもたちがかわいそうと思いつつ、不安で子どもたちに八つ当たりした。</li> <li>・ 単純な風邪でも周囲（身内）が過度に心配する。</li> </ul>
15-2-4	<b>家族関係におけるストレス増</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 退院して家に帰ると、主人の母との意見の違いでノイローゼになりそうだった。</li> <li>・ がんになったということで、夫の母親に子どもを連れて出ていくよう（離婚）をせまられたこと。何事も私の病気に結びつける夫の両親との人間関係に悩み、悔しい思いをしている。</li> <li>・ 家族と食事でもめること。食事の味及び食材の違いによる家事の手間がかかること、及び経済的にも別費用が余分にいるため、いつも愉快でない思いをしていること。</li> <li>・ 手術後年数が経ってくると家族がだんだんと協力的でなくなってきたことを感じる。</li> <li>・ 家族の対応。最初は熱心に看病してもらえたり協力してもらえたりするが、回数が重なると重要に考えてもらえないような気がする。</li> <li>・ 自分が主たる経済的負担が多く、夫の給与があてにならない。しかし未だに夫は経済面を考えていないように見える。これ以上自分を頼られても困る。</li> <li>・ 夫の世話をかわってくれる人がいないので、疲れきって体力も限界に近くなりつつあるし、夫も足が立たなくなりつつある。夫より先に死なないことと体力の限界が悩み。</li> <li>・ 日常生活の中で義母との件や寝たきりの義父の食事の世話で参っている。本来なら自分のために自由に生活がしたいと思う。</li> <li>・ 女性の場合、自分ががんと告知されても家事のことや日常生活の問題を第一に考えなければならない悲しさを感じた。何も考えずに治療だけに精神を使いたかったと思う。</li> <li>・ 弟と HLA が適合したが、提供を拒絶され移植可能かへの不安。病気に対して理解のない父親への対応。</li> </ul>

15-2-5	<b>家族等への告知</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 両親が高齢なので、転移したことを話してなく、色々なところで気をつかう。</li> <li>・ 子どもに不安を与えないように病気について説明すること。</li> <li>・ がんだと言われ、放射線治療を受けることになり、あっという間のできごとで家族、特に主人にどう話すかが心配だった。</li> <li>・ 健診で乳房にしこりがあるとと言われて、家族歴、身内にもがん患者がいなかったため、目の前が真っ暗になり、身内に告白するのもショックがあると思い悩んだ。</li> <li>・ 娘と父親にがんであるということを気づかせないようにすることが1番だった。</li> <li>・ 再発を親に知らせたくないで治療を内緒にすること。</li> </ul>
15-2-6	<b>家族に対する気がかり</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同じ敷地内に住む夫の姉は糖尿病の治療をしており、夫は高齢である。誰かが寝たきりになると不安。</li> <li>・ 本人はもとより老齢の母親や家族のことが非常に心配となった。</li> <li>・ 老人になった母親が現在入院治療しているので、今後のこと。</li> <li>・ 私にもしものことがあった時、家族はどうなるだろう。家庭内のことはすべて私がやっていたので（経済面のやりくりを含めて）他の者ではわからないだろうから。</li> </ul>
15-2-7	<b>子どもとの関係</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもが小さかったので（幼稚園と乳児）、母親が入院中の子どもの世話。日常生活をどうやりくりしていくか考えるのが大変だった。</li> <li>・ 子どもの学校のことや行事に出られなくなるなど、子どものためにできることが徐々になくなっていくような気がしてとても悲しい。</li> <li>・ 息子は受験を控えて精神的に不安定で反抗を繰り返している時で、転移してうつ状態の私を避け、帰宅が遅くなり遊びまわるようになった。</li> <li>・ 子どもたちが私の遺伝子を受け継いで同じ病気になるのではないか、子どもにはつらい思いをさせたくない。</li> <li>・ 母子家庭で、長男を預ける所は1週間が限度で、結局1ヶ月預かってくれるように交渉するのが大変だった。安心して入院生活を送れず、術後2週間で退院しなければならなかった。</li> <li>・ 何年前C型肝炎に感染したか不明だが、家族（妻はC型肝炎）、子ども、孫等に感染するのではと（唾液、血液等）心配。</li> <li>・ 子どもが二人いるが、子どもには子どもの生活があるので迷惑を掛けないように生きていくにはどうしたらいいかと毎日悩んでいる。</li> <li>・ 薬の影響でかつらになってしまい、気にして子どもとも思い切り遊べない。また、人前で近寄ってくる子どもに頭を触られないように意識してしまいものすごく疲れた。</li> <li>・ 副作用で髪が抜けてかつらをかぶり外に出ることや子どもの参観日などがとても嫌でした。</li> <li>・ 末期がんとわかったので、娘に家内の面倒は見てもらうことにしたが、金銭的な問題（娘は現在働いている）で、大きな負担をかける。</li> <li>・ 子どもたちがとても小さく、術後まだ無理のできない体で子どもたちを抱っこしたり、あやしたりした。</li> </ul>

15-2-8	<b>子どもに対する気がかり</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 残される子どものことを考えると不安でたまらなくなる。</li> <li>・ 私が入院したら、受験だった娘はどうなるだろう、まだ死ねない、死にたくないと思った。</li> <li>・ がんと診断された時、子ども 4 人の成長を最後まで見届けたいがそれもダメなのだろうかと思った。</li> <li>・ 母子家庭であり、まだまだ小学生の子ども達を残しては死ねない。</li> <li>・ 娘は障害があるので、この子を残していけないとすごく悩んだ。</li> <li>・ 娘が拒食症にかかり入院もさせたが、現在もまだ治っていない感じ（一応普通に生活はしているが食事は正常でない様子）。自分の病気のこととあわせて悩みの種。</li> </ul>
15-2-9	<b>妊娠・出産・育児の不安</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ もう一人子どもが欲しいと思っているが、それが可能なのか。妊娠してもちゃんと普通の子どもが産まれてくるのか。</li> <li>・ 妊娠がわかり子宮頸がんの細胞診でがんが見つかり、そのまま妊娠を継続できるかどうか不安だった。</li> <li>・ 子宮がんと診断されたのと同時に妊娠していたので赤ちゃんを無事に産めるのか、産めたとして未熟児は間違いなく、視覚等の障害があるかもしれないということに関して悩んだ。</li> <li>・ まだ 2 ヶ月の子どもを親に預けて入院すること。母乳で育てていた時期だったので、入院中に乳が張るとつらかった（痛いのと子どもに飲ませられないつらさ）。</li> <li>・ お腹に子どもを妊娠中ですぐには手術ができず、妊娠中は、がんの進行が早いと聞き、転移することが心配だった。</li> <li>・ 妊娠中だったので中絶したことを悩み、後悔し、今後、子どもができないことを悩んでいた。</li> </ul>
15-2-11	<b>家族との意見の不一致</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 配偶者には民間療法のみで治療することを勧められ、外科的治療を拒否された。担当医にインフォームド・コンセントをもらったが、説得（納得）までに悩んだ。</li> <li>・ 自ら選んで入った病院であり、医師を信頼し、特別のことがない限り面倒をお願いしたいと考えているが、知人、親戚、みんなが医事評論家となっていると干渉され面倒であった。</li> <li>・ 自己決定を貫き問題にはならないが、各人（友人、家人、縁者）が治療対応について勝手に進めること。</li> </ul>